

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0108 NO73

校長 伊波喜一

挑戦の 気概溢れん 闘将の 大胆にして 勇敢であれ

2015年W杯で24年目にして優勝候補の南アフリカを破った日本ラグビーチーム。当時のヘッド・コーチ：エディー・ジョーンズ氏は、負け癖がついた日本を、勝利に導いた闘将である。体格で劣る日本チームは、戦う前から戦意喪失で自信を失っていた。氏は選手達に言う。「相手に当たり負けしない体を作ればいい。そして、相手より早く動いて、トライすればいい」。氏の練習の厳しさは、あの猛者達が音を上げるほどだった。それでも、氏は手綱を緩めない。曰く「自信をつけるには、どうしたらいいか？ 準備し、努力すれば、自信がつく。自信がつけば、自分を信じることが出来る。それが、不可能を可能にする」。その指導法は、イングランドチームの立て直して、改めて脚光を浴びた。氏はこんな言葉も残している。「勝つことを目的にすると、負けたら終わりとなってしまふ。常に自分のベストコンディションを目指して、プレーすること。そうすれば、負けても必ず次に活かせる」。目先の勝ちに一喜せず、着実に一步積み重ねる人こそ、真の勝利者ではなかろうか。